

平成22年度 府立四條畷高等学校 学校評価報告書

府立 四條畷高等学校
校長 池田憲昭

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び考え行動する、心豊かでたくましくバランスのとれた人間の育成を目指し、社会や人々に貢献する人材を送り出す。

2 本年度の教育目標

- 確かな学力への取組み
- 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ
- 学校・家庭・地域等の連携と安全で安心な学校づくり
- 学校運営体制の確立と教職員の資質向上

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成22年4月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<p>○授業力向上 授業力を向上させるため、教員の研究授業実施数と授業見学率を高めるだけでなく、他の進学指導特色校の授業や取組を積極的に見学に行くことに取り組んでいく。また、生徒による授業評価の結果を授業力向上に反映するよう各教員が努力する。</p> <p>○自習室の充実 閉館時刻を午後7時半から午後8時まで延長し、卒業生によるチューターを複数名常駐させることでさらなる充実をはかる。</p> <p>○進学合宿の試行 自学自習の習慣の確立のため「進学合宿」を1年生において試行する（または来年度実施に向けて計画する）。</p> <p>○国際交流活動の立ち上げ 希望者による英語圏への海外研修、アジアからの訪問団の受け入れ、来年度以降の海外修学旅行計画のなど、日ごろの語学学習や歴史学習の成果を発揮する場を確立する。</p> <p>○SSHに再申請 スーパーサイエンスハイスクールの指定に向けて今年度も再度申請する。校内体制を整え、先進的な理数教育の取組を先行実施することで来年度の指定を目指していく。</p>	<p>○授業力向上 教員間の呼びかけにより、他県の私立進学校である東大寺学園の授業見学および意見交換会を6月4日（金）に実施した。また、生徒による授業評価も2回実施した。いずれも教員の具体的な授業改善に寄与した。</p> <p>○自習室の充実 自習室開放時間の延長、チューター制の導入ともに定着した。自習室の利用者は昨年度に比べ20%増加した。</p> <p>○進学合宿 今年度内の検討により、来年度は1、2年の2学年で実施することを決定し、それぞれの実施地域（淡路青少年自然の家、能登青少年自然の家）への下見も済ませた。PTA集会ではほぼ100%の保護者から実施に向けての支持を得た。</p> <p>○国際交流活動の立ち上げ 希望者によるオーストラリアへの研修旅行を年度内の3月に実施することとなった。（募集10名、希望者33名）また、6月にオーストラリアの高校生、9月に中国の高校生、11月にアメリカ最優秀教員、同じく11月に中国記者団の訪問を受入れ、多くの国際的な経験を積む場を確保できた。</p> <p>○SSHに再申請 5月 SSH 推進委員会を編成し、9月までに議論を行い、12月の段階では「エネルギー」をテーマとして、再申請する準備を整えた。また、風力発電機とソーラーパネルを屋上に設置し、生徒の体験活動に活用した。</p>	<p>進学指導特色校では「グローバル社会をリードする人材育成」を目標としている。現在既に実施している教育活動、今年度新たに立ち上げた教育活動が、その目的にそったものとなるよう、各取組を益々充実させる。</p> <p>左にあげた取組の結果として、国公立大学合格者数200名、東大京大阪神戸大合格者数100名という目標数を具体的に持っている。</p> <p>しかし、その人数だけではなく、グローバルリーダー育成を意識しながら、学力をつけていく。SSH、国際理解教育、進学合宿などはそのような取組みとして発展させる。海外の大学への進学者を出すことも視野に入れていく。</p>
(2) 生徒指導等	<p>○学年主導から分掌主導の指導 生徒の進路、健康、行動に関わる情報を複数の関係職員が共有することで手厚い生徒指導が行える体制を整える。</p> <p>○リーダー育成の視点 社会をリードする人材の育成という観点から、国際経験や大学見学など、将来に直接役立つ場面を設定し、その場にふさわしい行動が取れるよう包括的に指導していく。</p>	<p>○学年主導から分掌主導の指導 特に進路指導面で、情報を複数の関係職員が共有することで手厚い生徒指導が行える体制を整えた。</p> <p>○リーダー育成の視点 関西圏だけでなく東京にも学校訪問を行うこと、他校のSSHコア事業に協力することで本校生徒・教員がマストゥアーに参加したりすることができた。</p>	<p>校内イントラネットを活用した、生徒情報のデータベース化を完成させたい。</p> <p>大阪や、他県や、他国のリーダー校の生徒と切磋琢磨する機会を増やしたい。</p>
(3) 学校運営等	<p>首席（学科長）、分掌長および主任からなる運営委員会は、多くの府立高校において従来から学校運営の中心組織である。本校でもこの運営委員会を中心に各種委員会、分掌会議、学年会、教科会が有機的に連携して学校運営に当たっている。</p> <p>さらに、進学指導特色校としての学校活動を検討するためにSST準備委員会を設けており、企画構想、カリキュラム、広報企画、国際交流等の7つのワーキンググループで各担当内容を具体化する。エル・ハイスクール推進委員会の機能を継承して編成された畷プロジェクト委員会は将来構想の企画を引き続き担当する。</p>	<p>8月23日（月）に滋賀県立膳所高校を管理職を中心とした5名で訪問し、学校運営に成功したと言われているその改革の内容を学んだ。ポイントは2点ある。1つめは効率的な校内組織の再編である。2つめは授業ごとに生徒に「なぜを問う」教員の姿勢である。</p> <p>1点目については、本校でも来年度から、分掌横断的に学校全体にかかわる業務を担当する「畷プロジェクトチーム」を編成することができた。</p> <p>2点目については、年末から2回にわたって、韓国の教育制度に関する研修、PISA型学力についての研修を実施することができた。</p> <p>新たな段階に向けて前向きな変化の途上にある。</p>	<p>今年度立ち上げた「畷プロジェクトチーム」効果的に活動できるよう環境整備を行う。</p>
(4) 追加項目	なし		

4 学校教育自己診断における結果と分析

[平成 年 月 実施分]

*実施対象（教職員 ・ 児童・生徒 ・ 保護者 ・ その他）

本年度は実施せず。

5 学校協議会における提言内容

*実施日 第1回（8月27日）第2回（1月25日）

*委員構成
PTA 会長
後援会理事
民間企業会長
大学理事
近隣中学校長

*内 容
これからの人材育成についての提言
①input だけできる人材でなく output できる人材を育てる
②部活以外に生徒が自分を表現できる場をつくる

現在の四條畷高校の取組への助言
①伝統を守りながら新たな取り組みに挑戦をして欲しい